

# 紙の手形・小切手 利用廃止へ



**2027年3月末までに**  
紙の手形・小切手の交換が廃止されます。

**【注意！】**金融機関によっては最終振出期限を設定しており、  
10月1日以降、原則当座勘定からの支払いができなくなります。

政府方針<sup>(※)</sup>をもとに、産業界・金融界が連携して手形・小切手の利用廃止  
に向けた取組みを行っています。今すぐ、でんさい等の電子記録債権や  
インターネットバンキングによる振込等への切替えをご検討ください。

(※)「約束手形・小切手の利用廃止に向けたフォローアップを行う」(「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画  
2023改訂版(内閣官房)」より)



日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry



一般社団法人  
全国銀行協会

SHINKIN

信用金庫

Shinkumi Bank

信用組合  
しんくみ

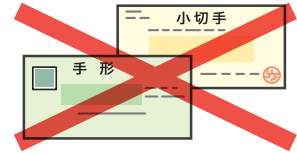
Q

## 2027年3月末までに 電子化しないとどうなるの？

A

事業者さまにおいて、これまでどおりの手形・小切手の利用ができなくなる可能性があるため、早期に電子的決済サービスへの切替えのご検討をお願いします。

- 政府方針を受けて、多くの金融機関では2027年3月を待たずに前倒しで手形・小切手の取扱いを縮小する動きを示しています(手形帳・小切手帳の発行終了や最終振出期限の設定等)。
- 事業者さまによっては、電子的決済サービスへの切替えには時間がかかる場合があります。



Q

## 電子的決済サービスには 何があるの？

A

でんさい等の電子記録債権や  
インターネットバンキングによる振込等があります。

電子化することで、「コスト削減」「事務負担軽減」「リスク低減」等のメリットがあります。

### 電子化の メリット

1

#### コスト削減



- ✕ 郵送料
- ✕ 印紙代
- ✕ 取立手数料

2

#### 事務負担軽減



- ✕ 現物管理
- ✕ 手書き・ゴム印
- ✕ 印紙・押印・発送

3

#### リスク低減



- ☑ 紛失・盗難の心配がなく、災害に強い

Q

## 電子的決済サービスの導入は 難しくないの？

A

かんたん3ステップで導入できます。

STEP 1

### 金融機関へ ご相談/申込



事業者さまの電子化支援や資金繰り支援等のサポートを行っている金融機関もあり

STEP 2

### 取引先へ ご案内



でんさい等の電子記録債権・インターネットバンキングによる振込等への切替えを案内

STEP 3

### 社内の 導入準備



事務手続きや管理手順の見直しを行い初期設定

